

## 令和元年度 大井川の清流を守る研究協議会総会

1. 開催日 令和元年7月5日（金）午前9時30分～午前11時30分
2. 場所 島田市 大井神社 宮美殿（しあわせの間）
3. 内容

大井川流域5市2町（島田市・御前崎市・牧之原市・掛川市・菊川市・吉田町・川根本町）でつくる「大井川の清流を守る研究協議会」（会長・鈴木敏夫川根本町長）は5日、本年度の総会と講演会を島田市の大井神社 宮美殿にて開催。総会には各市町の首長及び議長、担当職員ら33人が出席しました。

総会では、平成30年度の事業報告及び収支決算、令和元年度の事業計画（案）と収支予算（案）が審議され、いずれも原案のとおり承認されました。

本年度事業としては住民を対象とした源流部等視察会や小学校での環境教育出前講座の実施、大井川の環境問題に関するワークショップ、大井川を再生する会との連携による大井川フォーラム等の開催を実施する予定です。

また、リニア中央新幹線南アルプストンネル建設における大井川の流量問題については静岡県が先頭となり、大井川水系の水資源の確保及び水質の保全等に関して、専門部会においてJR東海との対話を進めているところであります。当協議会におきましても、リニア中央新幹線建設に係る諸問題をはじめ、大井川流域の土砂堆積など、大井川の流況改善に関する要望活動を展開していく様、流域市町が一体となり情報を共有し連携を図っていくことが重要であると確認しました。

講演会は総会終了後に実施。講師に静岡大学大学院理学領域教授の森下祐一様を迎え、「リニア中央新幹線建設による大井川への影響を最小限に！（中間意見書解説と今後の課題）」と題し、静岡県中央新幹線環境保全連絡会議「地質構造・水資源専門部会」等において協議してきた内容による中間意見書の解説と今後の課題について講演いただきました。講演では、南アルプスの地質は複雑で、慎重に注意を払う必要がある。一体が付加帯であり、上の地質ほど古く下に行くほど新しい地質である。JR東海は地質についてあまり認識していない状況であり、今までの対応等とは異なることへの理解が必要である。

2014年（H26）4月の環境影響評価書においては、 $2.03\text{m}^3/\text{s}$ の水が減少すると言っていた。高橋式の水文学的方法により算出しているとのことであったが、専門部会の中でも他の方法より算出してはどうかとの意見もありました。水系の水は水系へ戻すのが適切であり、トンネルから出た湧水は、地質に戻すことが一番良いが、南アルプスの地質では難しいものと考えられる。

今後においても、JR東海からのリスク回避や軽減、水資源の保全・確保及び自然生態系への影響を監視する体制が必要であり、将来に亘り安全・安心を確保するため、対話を行っていく必要があると話されました。



総会の様子



講演会の様子